

大腸がんのことを、どれだけ知っていますか？

～市立病院の取り組み～

皆さんご存じのとおり、日本で一番多い死亡原因は『がん』です。2013年には36万人以上の方が、がんで亡くなりました。その中でも、大腸がんは、肺がんや胃がんに次いで、3番めに死亡数の多いがんです。また、2011年の1年間に、新たにがんと診断された人数（罹り患かん数すう）は、85万人を超え、その中で大腸がんの罹患数は、男性が約7万人、女性が約5万人でした。

動物性脂肪食の摂取量増加やアルコール多飲など、食生活の欧米化とともに、大腸がんの罹患数は、明らかに増加傾向にあります。臓器別にみると、大腸がんは男性では4番めに、女性では2番めに多く、男女合わせても2番めに多いがんです。

また、40歳から年を重ねるにつれて増えているのが特徴で、高齢化の進む日本では、大腸がんはますます増えていくものと思われます。

大腸がんについて考えるときに大切なことは、大腸がんは粘膜にできた良性のポリープが悪性化して、初めてがんになるということです。一方、このポリープやがんは、肛門からの内視鏡検査（大腸ファイバー）で容易に診断ができ、さらにポリープや初期の大腸がんは、大腸ファイバーで切除することができます。つまり、定期的到大腸ファイバーを行い、良性のポリープである内に切除していけば、理論上、大腸がんで命を落とすことはありません。

ところが、大腸ファイバーは、大腸内の便を空っぽにするための準備が大変で、検査中の苦痛も強く、辛い検査とされているので、敬遠されがちです。

市立病院では、大腸ファイバーの苦痛を軽減するために、希望者には十分な鎮痛剤や鎮静剤を投与して、検査を行うことにしました。この方法では、ほとんど眠っている間に検査が終わり、あまり苦痛を感じることはありません。

また、高齢の人でも安心して検査が受けられるように、入院してから下剤を飲む日帰り入院のコースも設けました。

このように、市立病院では、ますます増加する大腸がんに対し、さまざまな取り組みを行っています。その取り組み内容について、来月と再来月の2回で紹介します。

今回は、内視鏡センター長の濱戸医師から、「大腸ファイバーによる検査と治療について」、中山医師から、「大腸がんと肝転移に対する手術や抗がん剤治療について」、紹介する予定です。

●2013年の死亡数が多い部位

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	肺	胃	大腸	肝臓	膵臓
女性	大腸	肺	胃	膵臓	乳房
男女計	肺	胃	大腸	膵臓	肝臓

元データ：[人口動態統計によるがん死亡データ](#)

●2011年の罹患数(全国推計値)が多い部位

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	胃	前立腺	肺	大腸	肝臓
女性	乳房	大腸	胃	肺	子宮
男女計	胃	大腸	肺	前立腺	乳房

元データ：[地域がん登録全国推計によるがん罹患データ](#)